

<p>【キャッチフレーズ】</p>  <p>笑顔・花・命</p>	<p>奄美市立大川小・中学校</p> <p>学校だより大川</p>	<p>【校訓】</p>  <p>勉学・協力・根性</p> <p>平成30年9月21日発行</p>
---	-----------------------------------	---



「輝け！」

校長 前田浩之

秋季大運動会が久しぶりの晴天の下、盛大に行われ、大成功に終わりました。二学期です。最も長く、行事の多い二学期です。「二学期は運動会・体育大会や学習文化発表会などの行事がたくさんあります。学校に行事があるのはなぜだと思いますか？」私はよく子どもたちにたずねます。たいていの子は戸惑い、「息抜きのため？」と答える子も中にはいます。

学校行事にはねらいがあります。学校は色々な子がいる様々な個性の集まりです。勉強の得意な子、走るのが速い子や柔軟性に長（た）けている子。絵が上手な子。読書が好きな子。声の美しい子もいます。また、際だった能力は見えないのですが、不思議と集団をまとめる魅力を持った子もいたりします。その一人一人の長所を認め、伸ばし、輝かせるために学校行事はあるのだと私は考えています。

さらに、行事への取組を通し、子どもたちは皆で協力し、一つのことを作り上げていく楽しさや團結することの素晴らしさを、座学（ざがく）ではなく、身体で体験するのです。実は、このお互いが協力して何かを作りあげていくという能力は、日本人が特に優れていると感じています。欧米人は概して自己主張が強く、個がぶつかり合い、チームとしてはなかなかまとまりません。日本人の良さは、一歩引いて全体を見通し、どう自分が動けばよいかを考えられるところにあると思います。だから、個が重要視されるサッカーなどより、チームプレー重視の野球の方が、世界的に通用するのだと思います。個々の力の累計では遠く世界に及ばない日本チームが、オリンピックの400mリレーで銀メダルを獲得できるのも、その長所の証でしょう。

ローマ日本人学校に勤務していた時代。開校2年目のイベントとして、運動会を現地イタリア人を招待して行いました。そこで好評だったのが小学校高学年から中学生までが行う組体操でした。身長も体重も、運動能力もバラバラな児童生徒たちが、それぞれに適切な役割分担を行い、決められた形を作り上げていく。最初はうまくいかず、練習ではぶつかり合い、不平不満も出てきます。しかし、成功を目指すためには友人ではなく、自分がどう動けばよいかにやがて気がつきます。「不平」ではなく「励まし」。「できない」ではなく「やる」。練習を通し、子どもたちは大きく成長しました。一糸乱れぬ演技に、観客から「Bravissimi! (素晴らしい)」の歓声が飛び、大きな拍手が贈られたとき、子どもたちの満面の笑みが輝いていたことを思い出します。

行事の多い二学期が、運動会でスタートしました。保護者や地域の皆様には、ぜひ児童生徒の「輝き」を見て欲しいと願います。

夏休み後半～子どもたちの様子



子ども会球技大会でアベック優勝



第71回秋季大運動会



息のあった応援団演舞



全員リレー



力のこもった綱引き



小学生全員による
大玉転がし

最後は八月踊りで



※準備から、後片付けまで、ご協力ありがとうございました。

優勝：紅組
新記録賞：迫地きよら（中学女子 800m 走）
中川 快（中学女子 800m 走 同 100m 走）

9/23(日)	市内中学校体育大会 小湊 西仲勝敬老会
9/24(月)	西仲勝びっこさらっこ 小湊十五夜行事
10/1(月)	奄美市教育委員会学校訪問
10/2(火)	全校朝会 (中) 中間テスト～3日
10/4(木)	スクールカウンセラー来校 地区中学駅伝
10/13(土)	土曜授業
10/17(水)	西田地区びっこさらっこ